

ぶどうの灰色かび病が多い

～ 損傷、発病部位の除去と薬剤散布に努めて下さい ～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

6月中旬に実施したぶどうの巡回調査では、灰色かび病の発病葉率がキャンベル・アーリーで0.2%（平年0.1%）、巨峰で0.2%（平年0.0%）といずれも高かった。

仙台管区气象台から6月17日に発表された東北地方1か月予報によると、今後、平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれていることから、さらに発病が拡大する可能性がある。

また、本病は花穂や若葉の傷口、組織の柔らかい部分から侵入して発病するが、県内の一部地域では強風や降ひょうにより新梢や花穂の折損、葉の損傷が確認されており、これらの被害が大きい園地では今後本病の急増が懸念される。

2. 防除対策

1) 耕種的防除

損傷した新梢や花穂では本病が発生しやすいのでそのまま放置せず取り除き、園外に持ち出し処分する。花冠、不受実果などの花器残さは成熟果への伝染源となるので、果粒肥大前（袋かけ前）に払い落とす。なお、発病部位は伝染源となるので、摘み取り後、焼却処分または土中埋没する。

2) 薬剤による防除

防除薬剤は表-1から選択する。オーソサイド水和剤80以外の薬剤は、耐性菌出現回避のため、本病に対しての年間使用回数を1回とする。また、同一系統薬剤の連用を避ける。

アミスター10フロアブル、ストロビードライフロアブル及びスイッチ顆粒水和剤は、いずれも果粒が大豆大以降の散布により果粉の溶脱を起こすおそれがあるので、その前までに散布する。

表-1 ぶどう灰色かび病の防除薬剤

分類	薬剤名	希釈倍数	散布時期
S	アミスター10フロアブル	1000倍	
S	ストロビードライフロアブル	2000倍	落花直後～落花7日後 晩腐病との同時防除剤として散布
N・W	スイッチ顆粒水和剤		
S	ファンタジスタ顆粒水和剤	3000倍	
K	オンリーワンフロアブル	2000倍	落花7日後～7月中旬
D	オーソサイド水和剤80	1000倍	6月上旬～7月中旬(収-30日)
L	ポリオキシシAL水溶剤	5000倍	落花7日後～7月上旬(幼果期)
L・O	ポリベリン水和剤	800倍	
K	パスワード顆粒水和剤	1500倍	6月下旬以降
K	ピクシオDF	2000倍	

分類

D:ポリハロアルキルチオ剤 K:EBI剤 L:抗生物質剤 N:アニリノピリミジン系剤 O:グアニジン系剤
S:QoI剤 W:その他の殺菌剤

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660

秋田県果樹試験場 TEL 0182-25-4224

掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>